

2021年12月期 通期決算説明会 質疑応答の要約

2022年2月10日に開催した決算説明会において、参加者の皆さまから頂いた質問をまとめたものです。GMOインターネット 代表取締役会長兼社長・グループ代表の熊谷より回答させていただきました。また、一部IR部門にて回答を補足させていただいております。

●連結業績

【Q1】 2022年度の戦略投資の規模感（前期比）及びその優先順位を教えてください。

【A1】 2021年は外貨ex byGMO、Omakase、及び年明けにはなりますがGMOサイバーセキュリティ byイエラエのグループジョインという大規模な投資を行いました。さらに不動産投資という観点で、「GMOインターネットタワー」の55%取得も行いました。2022年度は、こういった百億円単位の大規模な投資は現時点では予定しておらず、これらのグループジョインにおけるシナジー創出及び不動産の活用によるGMOインターネットグループのブランド価値向上に全力を注ぎます。

●「GMOサイバーセキュリティ byイエラエ」のグループジョイン

【Q2】 「GMOサイバーセキュリティ byイエラエ」のグループジョインについて、シナジー創出のイメージ、今後の売上目標及び上場の予定を教えてください。

【A2】 「No.1サービスwith Security」というキャッチコピーをグループ全体の2022年度の計画に織り込み、主にインフラ事業のサービスとのシナジーを創出すべく議論を重ねています。

「GMOサイバーセキュリティ byイエラエ」は、現状では労働集約的なサービスが多いが、今後は高度な技術と知見を結集したSaaS型のプロダクトを開発し、グループの岩盤基盤と組み合わせることで、競合他社が追随できない圧倒的な差別化を図っていきます。

なお、売上目標については非開示とさせていただきます。また、上場予定についてコメントできるものではないが、個人的には上場に耐えうる実力値を持ったチームだと感じています。

【Q3】 「GMOサイバーセキュリティ byイエラエ」で開発するSaaS型プロダクトについて、業績貢献のタイミングはいつ頃か。また、中期的にどのように期待を持っておけば良いのか。

【A3】 過去26年間積み上げてきたインフラ事業を「ジグソーパズルで構成される大きな1枚のアーチ」と捉えると、サイバーセキュリティ事業は「最後の1ピース」だとグループ内で表現しています。すなわち、サイバーセキュリティ業界の中で最も優秀である会社にグループジョインいただいたことは、インフラ事業が他社の追随を許さない完全なものに昇華することを意味すると考えています。

まず、2022年度はSaaS型プロダクトの開発に集中いたします。2023年以降でのローンチを計画していますが、最初はフリーミアムモデルでの展開を予定しているため、業績貢献という観点からは2024年度以降となる見通しです。今回新たに仲間になったパートナーを心から歓迎するとともに、彼らの期待に応えるべくシナジー創出に全力を注ぐことをコミット

し、私自身も議論に参加しております。中期的な視点でご期待いただきたいと思います。

●株主還元について

【Q4】 自己株式取得について2019年度決算で150億円、2020年度決算で56億円、今回で50億円とそれぞれ開示したが、これらはどのように関係していると考えれば良いか？

【A4】 3,835万株を中長期にわたって取得・消却するという2015年開示の長期目標に沿って、株主の皆様にしたお約束を淡々粛々と毎年実行しています。取得については、毎年同じではなく、マーケット環境や手元資金額、予定している戦略投資額等を踏まえて判断しています。消却については毎期の最終利益の17%相当を淡々と実行してまいります。

なお、2020年度の56億円は、2019年の150億のうち、買いきれなかった残余分ということになります。また、今回の50億円は、2020年の56億のうち買いきれなかった残余10億円弱と新規の取得枠40億で構成されています。3年間で合わせると、150億円と40億円の190億円分の自己株式の取得をすることになります。

●その他

【Q5】 2021年11月に信託受益権の55%を取得した「世田谷ビジネススクエア」の今後の活用方法を教えてください。

【A5】 まず、「世田谷ビジネススクエア」の副名称については、従前お伝えしていた「GMOタワー」ではなく「GMOインターネットタワー」とする予定です。収益物件、ブランド価値向上2つの側面での活用を考えています。「GMOインターネットタワー」について、まず自社利用としては、2フロアの吹き抜けになっている最上階に「GMOサイバーセキュリティセンター」を設置するとともに、同フロアの余剰部分は3DCG用の高度なスタジオに活用いたします。また、投資用としては、テナントから得られる賃借料をPLに計上し、投資額の回収を図っていきます。

さらに、ブランド価値向上の観点では、施設の副名称を「GMOインターネットタワー」に、用賀駅の副名称を「用賀駅 GMOインターネットタワー前」に変更する予定です。また、ビルの外壁にGMOのロゴを付けることを予定しております。近隣に他の高層ビルもないことから視認性が高く、高いブランディング効果を期待しています。

【Q6】 グループ執行役員制度導入などESGの取り組みが急速に進んでいるように見えるが、背景を教えてください。

【A6】 エクイティの投資家に加えて、2021年度には起債を通じてデットの投資家からのご意見を聞く機会も増え、その中でESGの取り組みは投資家からの声が多かった事項のひとつでした。長年に渡って愛され、永続的に成長する企業グループになるべく、投資家を始めとした様々なステークホルダーからのご意見を真摯に受け止め、ESGに取り組んでいます。